

第372回放送番組審議会

1 日 時 2017年2月21日(火)14時～15時30分

2 場 所 tvk 第1会議室

3 委員総数 8名 出席者7名、欠席者1名 二宮務委員

出席委員; 山田一廣委員長、布施勉副委員長、白石俊雄委員、林義亮委員、五大路子委員、伊藤有壱委員、吉川知恵子委員
tvk;中村社長、押川取締役、熊谷コンテンツ局長、小林プロデューサー、近藤編成部長

4 議 題 (1)放送番組

資料:①2月のタイムテーブル

②2～3月の特番一覧表

(2)視聴合評

『クルマでいこう! #462 トヨタC-HR』

2017年2月12日(日)22時～22時30分

(3)その他 報告事項

・視聴者対応

報告期間:2017年1月14日(土)～2017年2月17日(金)

・第371回(1月)放送番組審議会の議事報告

(「猫のひたいほどワイド」2017年1月14日放送VTR)

5 議事内容 2ページ以降に記載

6 審議期間の答申または改善意見に対してとった措置及びその年月日

7 審議機関の答申または意見の概要を公表した内容・方法及び年月日

(1) 2017年2月14日(火)「猫のひたいほどワイド」(12:00～13:30)の

「放送番組審議会からのお知らせ」コーナーで審議内容を司会者が報告

(2) 審議概要を当社インターネットホームページに掲載

近藤編成部長

それでは定刻となりましたので、第372回テレビ神奈川放送番組審議会を開催させていただきます。それでは山田委員長、お願いいたします。

山田委員長

それでは始めさせていただきます。一昨日2月19日日曜日に金沢区の長昌寺というところで「南国忌の会」という催しがございまして、私も梅の花に誘われながら参加させていただきました。「南国忌の会」というのは、皆さん改めてここで説明するまでもありませんが、作家直木三十五の人柄、作品を偲ぼうという会で、今年はその三十五回目だそうで、ちょうど直木三十五の名前と一緒になったということで、とても楽しい会でした。テレビ神奈川のクルーの方も取材に来ていただきまして、24日金曜日の夕方6時から放送してくれるということで、とても楽しみにしております。それでは第372回目の番組審議委員会を始めさせていただきます。では、中村社長の方からお願いいたします。

中村社長

はい、中村でございます。本日もお忙しいところ大変ありがとうございます。今日、2月20日ということで、次回の番審でいくらかご説明させていただくと思うのですが、先日それをセールスしてもらった広告会社の方々にお集まりいただいて、「このような番組になりますよ」ということを、すべてではないですがちょっとお披露目をさせていただきました。かなり面白い、4月は音楽番組を中心にリニューアルということもしていければなという段階に来ています。またそこら辺も放送が始まったところで、是非先生方にご批評をいただきたいと思っております。近いところでいいますと、この25日からJリーグがスタートするということで、後で特番表にも出てきますが、久々にマリノスの開幕戦を中継しようということで、今年からご存知のようにJリーグも、ダ・ゾーンというところが巨額を出して放映権を取るということで。若干ちょっとやり方も変わってくるようでございます。できる範囲ということですが、取り組めればなと思っております。その初っ端の初戦を中継させていただきます。それからベイスターズも、どうや

ら沖縄の方では、練習試合ですけれども、4勝2敗ぐらいでなかなか調子もよさそうです。ここら辺も期待したいと思う今日この頃です。それでは本日もどうぞよろしくお願ひいたします。

山田委員長

ありがとうございました。それでは本日の議題に沿って進めてまいりたいと思います。まず放送番組について。これはお手元のタイムテーブル、2月3月の特番一覧表を参照していただきながら、事務局からお願ひいたします。

近藤編成部長

では、タイムテーブルをご紹介させていただきます。今月のタイムテーブルの方は、今日視聴合評していただきます「クルマでいこう！」で、「ENGIN FOR THE LIFE AWARD 2016」。毎年、1年間の番組の中で紹介した車の中から最も乗りたい、最も楽しい車というものを視聴者の皆さんからアンケートを募って決めています。今回はスバルのLEVORG STI Sportとあって、富士重工業さんの車になりました。前回は3年連続でマツダさんだったんですが、富士重工業さん、久々の受賞ということになりました。このLEVORGという車はワゴンタイプなんですけれども、STIというのはスバル・テクニカル・インターナショナルという、レーシングメーカーも兼ねているところがチューニングしたもので、ワゴンにしては非常にスポーツ的なものということで、いろいろご好評いただいたのかなと思います。続きまして「クルマでいこう！」の放送予定、そのあとに「Up To Date」「あっぱれ！KANAGAWA 大行進」の予定です。この1月から始まりました「猫忍」「俺旅」という制作委員会ものになりますが、イケメン俳優を使ったドキュメンタリーのご紹介になります。下の方は既に終わってしまいましたが、「神奈川県立公立高校入試問題解答速報」ということでご案内させていただきました。めくってタイムテーブルの次にいきます。「saku saku」はこの3月で終了してしましますが、また「キッズ劇場エース」、これも3月をもちまして終了する番組ですが、最後のところということで紹介させてい

いただきました。川崎競馬中継も1月31日、2月1日とSV2で放送しまして、来年度川崎競馬中継、開催は全部SV2でオンエアする予定です。これは3月に改めてご紹介させていただければと思います。スペシャルプログラム、ライブ&イベント情報とありますが、3月26日に、おそらく前回もご紹介させていただきましたが、この4月から始まった「猫のひたいほどワイド」、イケメンばかりを集めたワイド情報番組ですが、そのスタッフを集めて、3月26日に関内ホール大ホールで番組のイベントを開催いたします。第一部はソールドアウトで、第二部もほぼもう少しで埋まるかなというところで、これからいろいろイベント情報を出して、すべて完売させていただきたいなと思います。タイムテーブルに関しては以上になります。続きまして2月3月の特別番組一覧、こちらの方をご紹介させていただきます。先ほど中村からも紹介がありましたが、2月25日「Jリーグ中継」があります。Jリーグ中継は5年前に一度ネットで、山梨の方からもらったという過去実績がありますが、おそらく開幕戦は含めて10何年ぶりの編成になると思いますが、先ほどもダ・ゾーンさんがいろいろと出て来たところで、地上波でも試してみたいなというのがありまして、マリノスさんもいろいろとメンバーも変わり危機感を抱いており、マリノスさんからも是非というお話がありましたので、2月25日にJリーグ中継を編成いたします。2月25日「横浜市会座談会」。これは予算市会前ということなので毎年恒例に行っている番組です。その後飛びまして、2月26日日曜日「毎日映画コンクール」ということで、授賞式は終わりましたが、今年はやはり「シン・ゴジラ」が3冠、「君の名は。」が映画大賞、「この世界の片隅に」というところが受賞作品でした。いろいろな方がいらっしやっの授賞式になりました。19時から19時55分、ダイジェストになりますが、放映させていただきます。「川崎競馬中継」がありまして、「神奈川県議会中継」こちらは恒例の第1回定例会ということで、

ダイジェストの模様をお送りさせていただきます。3月5日日曜日、「かながわ旬菜ナビ 春の1時間拡大スペシャル」ということで、レギュラー放送は30分なんですが、9時から10時、この日だけは1時間という形にしまして、今まではロケが中心の番組でしたが、スタジオ構成にしました。スタジオにはJA神奈川中央会の会長をお招きして、各JAさん、JA横浜さんやJA川崎さんなど、各JAさんの取り組みなどを紹介する番組を放映します。3月5日に「神奈川県公立高校入試 特色検査解説」ということで、進学学校が行っている高校入試の解説になります。そして3月11日に「報道特別番組 僕の電気～東日本大震災から6年～」という報道特別番組を編成します。このクリップされているものの一番最後にリリースを挟んでおります。東日本大震災から6年ということで、うちのほうでも3月11日に2回ほど震災特別番組をやってきましたが、今回は電気ということで。「原発事故によって計画停電が始まった 神奈川に暮らす私たちのコンセントの向こうには福島がつながっているんだ」ということをコンセプトに今回は番組を制作しております。福島第一原発にも行きまして現地の模様も中に入れておりますし、3月11日はその当日ですので、午後2時40何分に、この時の模様を収録してこの番組にも入れるという算段になっています。この番組は報道特別番組ということで、関東・関西のお客さんにもオンエアしていただけるよう準備をしております。その後の3月14日15日は、3月4日、5日に開催される「神奈川県家庭婦人バレーボール大会」、やまゆり杯ですね、毎年恒例ですが放映します。3月19日「相模原市特番」。15分の短い番組ですが、こちらはリニアモーターや圏央道など、未来の相模原市を紹介する内容になっています。3月19日日曜日「80年ぶりの里帰り 戦艦陸奥の主砲横須賀に帰る!」。営業持込みとなっておりますが、ビデオパッケージ自体の制作はtvkの方でさせていただきます。もともと戦艦陸奥

は横須賀海軍工廠で製造されたこともあり、また2020年のオリンピック・パラリンピックで船の科学館あたりが造成されるということで、船の科学館に置いてあった戦艦陸奥の主砲、四番砲を横須賀に戻すという模様を陸奥の歴史とともにご紹介する番組です。3月22日、23日と「神奈川県議会予算委員会」。こちらは2月27日から3月6日の常任委員会の模様をダイジェストで送らせていただきます。3月26日「ラグビースペシャル 平尾誠二氏を偲ぶ 神戸製鋼vs三洋電機」を編成いたします。平尾誠二さん、若くして亡くなられたんですが、私どもの方に1991年1月8日の、神戸製鋼対三洋電機という、ごめんなさい、僕はちょっとラグビーは疎いんですが、非常に名勝負だったという試合の模様が保存されていたので、その試合をメインにお送りするんですが、平尾誠二さんにゆかりのある人々にインタビューを行ったものを付けながら、平尾誠二さんの偉大だったものをご紹介できればと、3月26日19時55分からお送りします。3月29日は「横浜市会ダイジェスト」。こちら第1回定例会の模様をダイジェストでお送りします。3月31日は「猫のひたいほどワイド特番」としまして、先ほどご紹介させていただきましたイベントの内容をこちらの番組、55分番組としてオンエアさせていただきます。以上が2月3月の特別番組一覧でした。

山田委員長 ありがとうございます。事務局から2月3月の放送番組について説明がございましたが、これについて何かご意見、あるいはご質問がございましたら。

林委員 平尾さんの番組はどういった方のインタビューですか。

近藤編成局長 大八木さんと、日本ラグビー協会の方でこれから平尾さんの追悼パーティを行うので、その辺の模様なんかも取り入れてと聞いています。

押川取締役 林さんのお名前もありますね。当時ラグビーで長年一緒に。

林委員 わかりました。

山田委員長 他にございませんか。3月19日日曜日の「80年ぶりの里帰り 戦艦陸奥の主砲横須賀に帰る!」。これは日曜日の11時から11時30分がいい時間帯なんです、やはり1時間のドキュメント番組か何かにした方がよかったなとか。まだ見ていないので何ともいえませんが。ちょっと、一時間ぐらいでたっぷり作った方が良いかなという気がします。他にございませんか。ないようでしたら、2番目の視聴合評に移りたいと思います。

近藤編成部長 それでは今日の視聴合評番組は「クルマでいこう!」ということになっております。今日同席いたしますのは担当プロデューサーの小林です。

視 聴 合 評

山田委員長 はい、ありがとうございます。この「クルマでいこう!」という番組は、テレビ神奈川の代表的な番組の一つでありますし、視聴者対応等についても常に上位にあがっています。しかもこの番組審議委員会でも視聴合評では何度も取り上げられております。そういう状況ですが、改めて担当の小林プロデューサーの方から、この番組のコンセプトなどをお話いただきます。

小林プロデューサー はい。小林でございます。よろしく申し上げます。私が担当させていただいてから丸3年が経ちますが、この3年の間にも、自動車業界はかなり大きな変革がありました。その中で岡崎五朗さんと藤島さんの、いわゆる自動車業界内の発言力といえますか、彼らに集まってくるいろんな車にまつわる情報というのは様変わりしてきていまして、また彼らの発言力、業界内への影響力が増してきているというのは、この3年でも感じています。彼らの発言力が増す理由というのは、とても公平な目で消費者側に立った意見を、自動車ジャーナリズムというものに則って世の中に発信し続けているということに、かなり評価をされていて、車メーカーからも信頼を多く勝ち取っている状況があると、最近は特に感じております。そうした彼らの自動車ジャーナリズムというもの

を「クルマでいこう！」という長年やっている番組の中で、視聴者にうまく、堅苦しくなく伝えられればということを念頭に置いてやっています。たとえば今の番組にあった「乗り味」という言葉一つとっても、岡崎さんが一生懸命「乗り味とは何ぞや」というところを説明していた。ひとつひとつの専門用語がどうしても視聴者を置いていきがちになりがちな番組なんですけど、少なくとも各放送の中で、「一つのフレーズに関しては、分かるように説明してくれ」ということは伝えています。そういったことが昨年の視聴率調査にも反映していったって、数字を大きく伸ばしていつている要因なのかなというところで、より視聴者に寄りながら番組作りをしているところでございます。

山田委員長

はい、ありがとうございました。それでは委員の皆さんから意見をいただきたいと思います。まず伊藤さんお願いします。

伊藤委員

この審議会でも、何度かこの番組が取り上げられていて、その都度楽しませていただいております。番組という、俯瞰する立場でいうと、一言でいって「非常に良いパッケージ」という印象があります。とてもいい意味で安定していて、常に一喜一憂しない、ある強いコンセプトの筋があって、そこにその都度取り上げられるトピックスというものが調理されている意味では、とても安心して見られる情報番組です。その片や、で感じたこととして、今回特にハッと肌で感じたのは、使用されている音楽の感覚なのか、安定感というのがある種10年とか15年前の番組を見ている感覚があって。車自体が、エンジン・フォー・ライフという、車を人生の中で楽しむということですけども、落ち着きの方が軸になっていて、ドキドキする感じが、ちょっと今回見ていた限りでは感じられなかった。今回のモチーフになった車のせいかもしれませんが、なにか番組自体の作り方の中で、フレッシュに感じさせる工夫が、もうひとつできるのではないかと感じた次第で。最後、一言でいうと、試乗とかするんですけど、岡

崎さんにもっと車をいじめてほしいんですね。SUVはスポーツ・ユーティリティ・ビークルですから、もともとはスポーツライクな車で、語源でいうとBMWのSUVから来ているわけですから、アクティビティの方から他社で使える言葉に流れてきたわけですけど。山道を走れとか、川を渡れとは言わないですが、そういうワイルドな車のイメージが街中で発展してきたという。それがどうも普通の一般車にまでなってきたという感覚が。そのプロセスは今回見ている限りは伝わらなくて。岡崎さんが乗りながらもう少し車をいじめてくれて、その「キヤッキヤッキヤ」という悲鳴をあげてはいけないんでしょうけど、メーカーのコマーシャルじゃないよ、というところをわかりやすく一点でいいから突っ込んでもらえたら、フレームとして大きく持続していく番組の中で、毎回のドキドキがあるんじゃないかなと思いました。以上です。

山田委員長 ありがとうございます。委員からいろいろな質問や注文が出るかとも思いますが、それは最後にまとめて反論していただければ結構ですので、よろしくお願いします。では、続きまして林さんお願いいたします。

林委員 この番組は、もともと自動車雑誌を毎週買って読んでいらっしゃるような方を対象にした番組ですよ。

小林プロデューサー が、多いとは。

林委員 それを踏まえて私の考えを述べさせてもらいますけれども、いろいろな専門的な言葉が飛び交いますよね。そういった方は十分に理解してついて行けるんでしょうけど、なかなか私も、車は乗っていますが、カー雑誌を買って読むほどの人間ではないので、なかなかついていけないという面もあったんですが、視聴者の対応が、ここに載っていらっしゃる方もそうでしょうけど、車のファンであれば、そこは多少目をつぶってもいいのかなという気がします。それにしても岡崎さん、藤島さん共に、非常に業界の中では知名度が上がってき

たというお話でしたけれども、それにしても多少はそういった「カーグラフィック」とかに書いていらっしやっていると、執筆しているとか、簡単な紹介がほしいかなという気がしました。それと、海外の自動車モーターショーに岡崎さんが渡米して云々といっていました、行ってらして乗っていらっしやるという感覚がなかなか伝わってこなくて。その辺、ちょっと臨場感がほしかったかなという気がしました。それと、冒頭の発言と矛盾するかもしれませんが、視聴者を広げようと思えば、ある程度は専門的な言葉をかみ砕いて、もっとお話しになった方がいいのかなと。ここにある、47歳男性のお子さんなどを見ますと、ほとんど車に興味がないということで。そういった方を視聴者として獲得しようと思えば、「いや、今そんなことは考えていないんだ」ということであれば、それはそれでいいんだらうけれども、視聴者を広げようと思えば、その辺のプランをお持ちであれば、ちょっと教えていただければという気がしました。この種の番組は、tvkの他に独自局でやっているところがあるのかどうか。あまり聞かないんだけど。そういう意味では非常に特色ある番組で、価値が高いとは思うんですね。自動車ジャーナリストの方もご覧になっているという感じの番組だと思うんですが。視聴者の拡大をどうして考えていらっしやるのかなというところが気になりました。藤島さんのユーティリティ・レポートは、非常にわかりやすくよかったです。以上です。

山田委員長

ありがとうございます。それでは女性の方から。五大さんお願いします。

五大委員

私は車が全く分からない人で。乗るだけで、種類があることすらよくわからない。その私でもこれを見ていて、車って、小さな男の子が目をキラキラ輝かせて車に魅了されているというのが、大人の人たちにもあるんだと、ある意味車の魅力というのが感じられたので。何もわからない人にとっても、「へえ、こんなにいろいろエンジンにしる何にしる、皆さんがやっているんだな」という

のが良かったなと思います。女性の方が案内を、乗って実際に動いて、あれはわかりやすく良かったなと思いました。すみません、車についてよくわからないもので。

山田委員長

ありがとうございました。それでは白石さんお願いします。

白石委員

毎週一回日曜日にやっているということですが、他社ではないという気がしているんですが、非常に貴重な番組だという気がしています。今回だけに限らないんですが専門用語が多いなど。お二人もいっていますが、きちっとわかってもらえるかどうか。そういう専門用語を使わないと説明できないくらい、多岐に渡った部品なりがありますから、なかなかできないとは思いますが。たとえば「乗り心地」というのは、たとえばカーブなんかは右に G を感じるように、重力だと思うんですが、そのぐらいはできると思うんですが、「乗り心地」がなんなのかはわかりにくいです。スポーツカーは高速道路で100キロや120キロ出した時の安定性とか、教えていただければわかるんですが、ただ、山道なんかでの乗り心地というのは、路面を拾わないようなショックが起きないような、そんなものだろうとは思いますが、すぐわからないような感じがします。それと、この車だけではないんですが、新しい車が開発されるときに、「これから買おう」と思う方は多分見ていると思います。他社の番組で取り上げておられますので。ただ買わない人はどうかという感じもします。本当にマニアだったら買う買わないを別にして、この番組を見たいというのはわかりますが、買うかどうかによっては、見ない人もいるのかなと思います。今の若い人は車もそうですし、家もそうですが、若い人のローンが組めないんですね。正社員だったらある程度ローンが組めるようなことはわかるんですが。買いたいけど買えないという若い人がたくさんいると思います。今回のC-HRは若い層の人たちが多いんじゃないかと思いますが、だけど若い人たちは買えないとい

うことがありますので、そうした人たちの車に対する夢を叶えてあげるようなメーカーなり、そういう方々の提言をしてもらったらいいなと思ったところです。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。それでは吉川さんお願いします。

吉川委員

最初に、後でお答えいただきたい質問をします。これは何年目の番組でしょうか。プロデューサーはもう3年目だとおっしゃっていましたが、後でお答えください。これは車のことが全く分からない私でも、番組名はよく存じ上げていらっしゃる定番の番組で、それだけに番組としては非常に完成度が高いと思いました。皆さんおっしゃっていることですが、専門用語がどうしても飛び交うという面があると思いますが、私個人的には、これだけマニアに向けてというか、視聴者層を絞り込んで作っている番組なので、ある程度そういうマニアを満足させるだけの完成度を保つには、変にわかりやすくということで、視聴者を広げることももちろんある程度大切でしょうけれども、あまり角を削っていくと、マニアに満足できる情報が伝えきれなくなっちゃうんじゃないかな、この時間では、という気がしました。冒頭エクステリア、インテリア、TNGAについて、写真での、試乗する前の説明があったときに、多分コメントは岡崎さんが考えられたんだろうなと思いながらも、ちょっと棒読みチックで、あまりご自分の言葉で語っているということがあまり伝わってこないなと、ちょっとやきもきしていたんですが、さすがに試乗されてからのコメントは、本当に自然で、しかも岡崎さんらしい精緻な表現がたくさんあって、さすがだなと。よくグルメレポートで、ただ「おいしい」というだけのレポートが視聴者に不満をもたらすのと同じで、乗り心地といってもどんな乗り心地なのかということ、ちゃんと具体的に表現されているのが、私としては非常にいいなと。あのマンホールの表現とか、ハンドリングの「すごく固くもなく、しなやかすぎでもない」という、ちょうど

いいという表現を非常にされていたと思います。どなたかもおっしゃっていましたが、女性のユーティリティ・レポートはアクションしながらで、非常に画像と一致していてわかりやすかったんですが、ロパクの部分と後から編集した部分の口が合っていないのが気になっているので、ジェスチャーだけで、おしゃべりはされなくてもいいのかなど。あと、細かいことですが、試乗の時の画像も、車の中と外の画像を使い分けられているんですが、後部座席で多分藤島さんですかね、ノートを取っている手だけが半分ぐらい映り込んでいたので、そういうのは気にしてほしいなど。完成されている番組だけに、そういう細かいところまでちょっとお願いできればなど。それから開発者の口にした「わが意の走り」の、一回聞いただけでは「意」という字がイメージできないので、ちょっとテロップを流してあげて、意図するところ、「思い通りにという意味なんだよ」ということがわかると、その後の話がよりスッと入ってきたかなと思います。これは伊藤委員もおっしゃっていたんですが、毎回その車を意識した音楽とか、試乗コースとか、そういうのをどれほどオリジナリティをもっていらっしゃるのか。逆に比較するとか公平に扱うという意味で、あまりいじっていらっしゃるのか、そこら辺も最後に教えていただきたいと思います。それから、○×じゃないですけど、御用番組じゃないということで、×の評価もきちんとおっしゃっているところはいいと思うんですが、岡崎さんのおっしゃった×の部分の「退屈なパワートレイン」というのが、試乗のときそういう感想を岡崎さんが持っているということがあんまり伝わってなくて、「いいね、いいね」という感想だけだったので。車をいじめるという伊藤委員の感想と同じなのかもしれませんが、「ちょっとこれは残念だな」というのがリアルに伝わってくる試乗風景があると、より後で説得力を持つかなと思いました。それから藤島さんのところで、「機械式駐車場に、これではターボ仕様の場合、入れない」という、

すごい女性ならではの、また岡崎さんとは違った視点で、すごくいいコメントだなと思いました。とても感じのいい方で、多分男性ファンもいらっしやるだろうに、で、「藤トモEYE」というコーナーでありながら、岡崎さんが行ったロスのワールドカー・オブ・ザ・イヤーのレポートがその内容というのはさびしいなど。せっかくだったら藤島知子さんの視点で、そこが一般視聴者を広げるという意味でちよつとなるかなと思ったんですが、「この季節、この車だったら私はどこそこへ行きたい」というのを藤島さんがレポートしちゃったりすると、きっと藤島ファンが喜んだりするのかなと。そういう柔らかさを出して、少し視聴者層を広げるというのも手かなと思いました。以上でございます。

山田委員長

ありがとうございます。続きまして布施さん、お願いします。

布施副委員長

私個人としては車に全く興味がなくて。免許は持っているんです。18歳の時にすぐ免許を取って家にあったボロ車には乗っていましたが。これが何のためのプログラムなのかがよくわからなかった。ディーラーさんのコマーシャルフィルムなのかなと。もしもそうだとすると、30分は長いですからね。ちゃんとできているんですけど、「クルマでいこう！」の「いこう」のところ。なんかもうちょっと工夫があると、車そのものに興味や知識がない人にも面白い番組で。今までも車の番組があって、神奈川県のだこかに車でいこうとか。そういうところも含めて視聴者の拡大を図っているというか、車のことはわからなくても結構車で行きたいなど。息子や旦那に「車で行こうよ」と、そういうところが湧いてくるような工夫があったら、私みたいな車に興味がない人でも、番組そのものは楽しく見れるんじゃないかと。そういう意味では非常に型にはまってきちっとなっているんですが、はまりすぎて、非常にビューティフルな作品に仕上がっているということは認めますよ。それがもっと広い意味での視聴者ということになると、もうちょっと30分退屈しないで見ていられるんじゃないかと。それだ

け力を持っている作品だと思うんですね。ただ今のままだと、率直な気持ち30分非常につらかったです。全然車に興味を持っていないから。そういう人もいる。テレビはいろんな人がいるから、広く視聴者にひきつけるような力がないと、テレビの番組としてはどこかちょっと欠けているんじゃないかと。好きな人は面白いでしょうね。機械工学的な意味でもそんなにプロフェッショナルじゃないから。一般に、私は長く若者相手に商売をしてきましたが、一時若者が車に興味を持っていた時期がありましたが、あっという間になくなっちゃって。特に大学生は全く興味はないですから。持っている奴はチェックしていて。「今度の日曜日、お前の車貸せよ」「あ、いいよ」と。全然気にしませんから。それで「何かあったらお前責任とれ」とか、そういうのもないですね。全く車に対する感覚がなくなっている現代において、じゃあそういう若者も含めて車に惹きつけるポイントが何なのか。それは難しいけれど、チャレンジする必要があるんじゃないかというふうに思いました。それができると、もう素晴らしいテレビの作品になるんじゃないかなと思いました。これは私の勝手な個人的感想ですが、そう思いました。

山田委員長

ありがとうございました。これは先ほども冒頭でお話しましたように、安心して見ていられる。岡崎さんも最初に出たころに比べたら、いい意味で慣れてきて、落ち着いて清潔感あるいは誠実感をもって話していることに、非常に好感を持ってました。ただ非常に上品すぎる番組内容だなというような気がして。上品すぎるということは、さきほど伊藤さんが「やんちゃになってもいいんじゃないかな」と話していましたが、私もちょっとそんな感じがしました。たとえば誰も他に走行がないところで車を走らせていましたよね。それはたとえば都会に出て、人が歩いたり、あるいは車の往来があるところでの試乗は、撮影も難しいと思いますが、そういうのをあの番組に入れてもいいんじゃない

かなと。急ブレーキがピッとちゃんと停まるとか。最近は特に、高齢者の運転免許の面で社会的問題になっていて、今朝の新聞にも84歳の女性がブレーキとアクセルを間違えてということも出ていましたんで。「ブレーキとアクセルというのは、そんなに間違えるものなのかな」という気がしながら記事を読んでいたんですが。そういう私も、左目を傷めてからはしばらく運転からは遠ざかっていて、運転の座もかなり息子に奪われてしまっていて、運転する機会も減ってきたんですが、ただこういう番組を見ていると、「もう一回握ってみたいな」という思いに駆られるし。こういう番組の良さは、多分私だけでなく、そういうことを感じさせる視聴者もかなりいるんじゃないかなという感じがいたします。たしかに車離れが多くなっているというふうに言われていますが、地方では車がないと生活ができないような、格差が激しい日本の社会構造になっていますので。ただひとつ臨場感が、ということをどなたかも話していましたが、これは私が見落としているかもしれませんが、試乗しているのがいつ、どこで何時ごろだというのをテロップに入れたらどうかなという気がいたしましたね。そういうことによって「本当に試乗していて、車の性能をきちんとチェックしているんだな」という思いにも駆られると思います。見ていてすごく清潔感がある番組ですので、いろいろメーカーを持ってやるのは大変だと思いますけど、テレビ神奈川の代表的番組の一つですので、長く継続してやってもらいたいなと思っております。以上です。他に言い足りないことがございましたら。

林委員 ちょっといいですか

山田委員長 どうぞ。

林委員 トヨタのお二人の小柄な方が、「求めやすい云々」ということをおっしゃっていた気がしますが、この類の番組というのはプライス、値段なんかはあまり触れ

ないものなんですか。これは後でお答えいただければ。また車業界の変革というのは、今盛んに出ている車離れのことなのか、車自体の、企業の動きの意味での変革なのか、そこを教えてほしいと思います。私の方からは以上です。

山田委員長 他にないようでしたら、小林プロデューサーにいろいろ質問やあるいは注文が出たと思いますけど、反論すべきところは反論し、答えをいただきたいところはお願いいたします。

小林プロデューサー 貴重なご意見をありがとうございます。遡って順番に主な部分にお答えしていきたいと思います。楽曲イメージ、10年15年前ぐらいの、懐かしさが漂うというところに関しては、常に悩んでいて。どうしても岡崎さんの、いい意味でのあの雰囲気を活かしていくと、どうしても似た雰囲気になってしまうのは、我々製作陣としてもどうにかしていかなくてはいけないなということで、楽曲選考を含めて対応していきたいと思います。車をいじめてほしいと。公道で車の性能を引き出す運転はなかなか放送で乗せずらいぐらいで、タイヤが鳴るギリギリまでだったりというところは、やらなければその車の本当の性能が引き出せない部分があるんですが、何かしらの形で、おっしゃったようにクローズドのコースだったりとか、そういうところで雑誌媒体だったりとかは撮影したりしていますので、今後番組の演出の側として、そういった検証やインプレッションを考えたいと思います。あと、決して車メーカーのPRではなくて、あくまでも我々テレビ神奈川独自としてのドキドキという部分でいうと、僕らがとても大切にしているのは最後の○×の評価。時にはかなり厳しい×の意見を岡崎さん、藤島さん共にいうこともあるし、それによって実際メーカー側が仕様をちょっと変更したりということも、今まであったようです。私のいる時ではありませんが。なので、そういった伝えるべきところは厳しいことをしっかり発信して

いくところを、引き続き番組でも認識してやっていきたいと思います。あと、用語の部分については、ずっと抱えている課題です。たしかにこれを一つ一つ説明していくと、番組の演出そのものが希薄になってしまうという部分があるので、この4月以降始めたいと思っている演出でいうと、たとえばインプレッション中にいっていた「乗り心地」という言葉を、たまたま岡崎さんは自分の言葉でかみ砕いて説明していましたが、その「乗り心地」という1個のフレーズを解説するコーナーみたいなことを今後設けて、「クルマの言葉」というコーナーを設けて。たとえば FF という言葉が出て来ていると思うんですが、その1個を5分程度かけて、しっかり二人のジャーナリストに解説していただくようなコーナーの新設を考えています。そのコーナーを継続的にやっていくことで、少しでも用語理解に努められればなと思っております。あとは、他の他社さんになような番組かという、まさにうちの番組が地上波で、こういった新車の情報を純粹にやっているのはうちの会社だけかなと。スタートしてから今年で39年目になります。その昔は「新車情報」という、三本さんがやられていた時代から見ると39年目です。そして岡崎・藤島コンビになってから今年で10年目になるところです。それだけ長く続けている番組です。試乗コース、これは番組として考えているのは、普段箱根方面でのインプレッションか、はたまた今日の C-HR でやった湘南国際村、いわゆる市街地かのどちらかのパターンで今は統一しています。というのは車の性能に合わせてある程度同じコースで走って、出て来る車の差異を表現したいなと思ってます。もうちょっとスポーティな車の場合、スポーツカーに近いような車の場合、箱根ターンパイクという、いわゆる走り屋、運転好きな人たちには有名な峠道があるんですが、そちらで車をいじめきるまではいかないですが、かなりその車の性能を表現、感じられる程度の検証はしています。もちろん周囲の安全面は

十二分に意識してやっています。

中村社長 今回は試乗会で、あんまりどこでも行けるというわけではなかったんですね。

小林プロデューサー でも、おかげさまで横浜でやることが多いので。今回はうちの番組でもよく使っているいつもの試乗コースを走ることができて、たまたま良かったです。

山田委員長 試乗の時は、所轄の警察署に申請なんかをする必要はないんですよね。

小林プロデューサー 車メーカー側がやっているか、普段我々が走るときは特にとっていません。

山田委員長 わかりました。小林プロデューサーがいろいろ説明していただきましたが、「これでは納得いかない」とか、ありませんか。

小林プロデューサー あと、値段の部分ですね。最初の概要のところでは

林委員 あ、出ましたか。

小林プロデューサー はい。値段がそれこそ高すぎる車に関しては、そこをつつくこともありますし。

林委員 私が見落としていたのかもしれない。

白石委員 燃費は、「今回触れませんでした」と自分でいいましたが、ガソリンとハイブリッド。どういう形で表示したらいいかはわかりませんが、知りたいところですよ。

中村社長 いつもは満タン法でやっているの？

小林プロデューサー 満タン法でやっていますが、より正確にするために、もっと正確な数字を出すというところで、今岡崎さんと相談してやっています。

中村社長 いわゆるカタログのは使わない。

小林プロデューサー カタログ燃費ほどあてにならないものは、今ないので

山田委員長 他にございませんか。ないようでしたら、視聴合評についてはこれで終わります。それでは3番目、その他報告事項に移りたいと思います。

近藤編成部長 それでは視聴者対応になります。A42枚の紙になります。お問合せは「あつ

ぱれ！KANAGAWA」にご意見をいただいています。これ以外ということで、裏の方になりますが、Jリーグ開幕戦、マリノスの試合ということでメールをいただいております。あと、電子メールだけではなく、ツイッターやフェイスブックの情報を見ても、「saku saku」が終了して、次に「関内デビル」という番組をリリースの方にもはさんでおりますが、加村真美さんという岩手県出身の女の子を起用することを、千名以上のオーディションで決定したときに、ツイッターのリツイート数が600件、「いいね！」数が1,800件と、かなり伸びました。マリノスの方もツイッターの方ではかなり反響を呼んでいたもので、そういうところではなかなか響いているのかなと感じております。視聴者対応については以上です。

山田委員長 ありがとうございます。事務局から視聴者対応について説明がございましたが、これについてご意見、ご質問がございましたら。

伊藤委員 今回のペーパーでは、こちらのお問合せのメールで一番群を抜いている「猫のひたいほどワイド」については特に触れていなかったんですけど、何か。

近藤編成部長 「猫のひたいほどワイド」は、プレゼントのものも含まれてしまうんですよ、メール数には。しかも1週間4曜日ある番組なので、その中でやはり一番群を抜いてしまうという実績状態があります。

伊藤委員 わかりました。

山田委員長 この「tvkニュース」は、時間帯は特に決めていないんですか。9時、6時ございますよね。「tvkニュース」の問い合わせメールがちょっと少ないです。

近藤編成部長 わかります。報道関係で金曜日の「newsハーバー」のところでいろいろコーナーをやっているんで、そこに対して時々メールをいただいているので、次回からは触れさせていただけるようにします。

土屋 今回は、ニュース930とハーバーが入った数字で、これでした。newsハーバ

一は4件でした。

中村社長

ニュースへのメールというと、基本的にクレームですよ。

土屋

あと、「イベントの紹介をしてください」というお願いですか、「取材に来てください」とか。

近藤編成部長

取材要請みたいなものはあります。

山田委員長

他にございませんか。ないようでしたら、前回の番組審議委員会の議事報告に移りたいと思います。

議 事 報 告

山田委員長

本日の議題はこれですべて終了いたしました。事務局の方から連絡事項がありましたらお願いします。

近藤編成部長

まず次回の373回テレビ神奈川番組審議会は、今年の3月14日の午後2時からです。3月は第2週になっておりますので、日付にご注意くださいませ。次回の視聴合評番組は、毎週土曜日夕方6時から放送しております横浜市さんの広報番組「ハマナビ」になります。こちらは3月4日土曜日、青葉区になります。そちらをご覧になっていただき視聴合評いただければと思っております。またご案内いたしました3月11日の報道特番、こちらの方を4月の放送番組審議会の視聴合評の作品にしたいと思いますので、こちらの方も是非お見逃しなくお願いいたします。あと、お手元に五大先生、伊藤先生からのご案内がございます。

五大委員

皆様のお手元にパンフレットをお配りしました。1年間野毛を取材して、戦後闇市から立ち上がった人々の思い。私たちが今忘れていた大事なものを作品にして打ち出したい。本当に何も無いところから脚本作りから夢座はやってきました。今回は牧内さんも市長の役で出ていただきました。激しい特訓を受けてびっくりしていました。「これ、違うんじゃないか、こんな厳しい稽古は」

とっていましたけど。一般の方からも全体のお芝居が好評で、最後の方は満席で切符が無いようになりました。そしてもう一度戦後というものを、この町であったことを考えてみようということを提示できたかなと思っております。ほんとうにありがとうございました。引き続き5月は「横浜ローザ」がありますので、よろしく申し上げます。

伊藤委員

すみません、宣伝させてください。一つは緑化フェアというチラシ、前回は配らせていただきましたが、これが最終・最新のメインポスターです。横浜市と国土交通省の全国イベントなのですが、今回tvk様ともいくつかのことを一緒にやらせていただき、大栈橋で29日に開催されるオープニング・レセプションの映像も無事に力を合わせて作ることができました。ありがとうございました。皆さんも見ただければと思っていますので、今回もtvkさんからご招待などしていただければと思います。あと東京芸大が、大学院のアニメーションや映像の研究科を構えて今年で9年目になりまして、毎年恒例ですが大学院の修了展、こちらが3月3日から5日まで馬車道校舎、旧富士銀行で入場無料で行われます。こちらの予告映像もtvkさんのお天気の様子で流させていただきました。ありがとうございました。また今週日曜日にオレンジ色の公開講座で無料のCG映画が1本見られて、さらにクリエイティブの謎が深く聞けるといふ公開講座がありますので、ご興味のある方は来ていただければと思います。以上です。

山田委員長

他に宣伝はありますか。白石さん、林さん、よろしいですか。布施さん、吉川さん、コンサートを開くとかはないですか。

吉川委員

皆さんに来ていただけるようなときはご案内します。

山田委員長

ないようでしたら、今日はこれにて閉会とさせていただきます。